



森 喜彦（もりよしひこ）1981年生。2006年八王子市役所に入所。2019年より八王子市議会議員（2期目）。無所属（会派は立憲民主・市民の会）。総務企画委員会委員、南多摩斎場組合議会議員、国民健康保険運営協議会委員（会長）。私立海城中学校・高等学校、東京都立大学卒（法学部）。趣味は天体観測、登山、自転車、バイクツーリング、アマチュア無線など。保護猫3匹と同居中。清川町在住。

もりもり通信 No.20

（森ヨシヒコ後援会報）



八王子市議会議員

森ヨシヒコ 市政報告

（このレポートは市政・地域情報として、地域の方にも配布しています。）

つくろう 市民自治の豊かな社会

はじめに

1月上旬の電撃的な衆議院解散、野党再編、そして総選挙による自民・維新の大勝と、日本の政治を巡る状況は一変しました。高市首相による台湾有事発言で生じた中国との緊張関係が解消されないままに、首相の路線を追認するかのような国会情勢になってしまったことは、そのリスクが加速することを意味します。首相が選挙公約にした消費税減税を本当に実施するかどうかは疑問ですが、首相がかねてから言及していた憲法改正、スパイ防止法の制定などは現実味を帯びてきました。他国の戦争に参加するリスク、巻き込まれるリスク、市民同士が分断され、言論や通信が抑圧され民主主義が正常に機能しなくなるなどが指摘されるこれらの法案が成立すれば、市民生活にも大きな影響が生じます。国同士の対立により市民が分断される事態を許さないためにも、地方からの運動が求められています。



2/19 国会前。参加者はライブコンサートのように各自ペンライトを持参

市議会 第四回定例会(11/28~12/18)

12月議会には市長側から補正予算案を含む48議案が提出され、審議を行いました。補正予算は子どもの医療費助成の実績が当初見込みを上回ったことや、東京都に支払う消防委託金など歳出を4億3500万円増額しました。他に、学童保育や市民センター、公園など、市の公

共施設の指定管理者を指定する議案、八王子駅南口に建設中の公園やその中の図書館や博物館を設置するための条例を制定する議案、市職員の懲戒や給与に関する議案などが審議され、いずれも可決しました。

一般質問 ①クマ対策

2025年の秋は、全国各地でクマの目撃や被害が多発しました。原因は山の荒廃や気候変動で餌不足になった、市街地との境界が曖昧になった、など様々指摘されていますが、出沒・被害状況は地域差が大きく、東北・北海道と東京では状況は大きく異なります。都内における出現状況はインターネットの「TOKYO くまっぷ」で調べることができます。2025年内、市内でクマの姿や痕跡が確認されたのは35件と増加傾向にありますが、本市における出現は基本的にクマの生息域内であり、本来いないところに出てきている状況ではない（危険性は低い）と評価されています。「くまっぷ」検索では、市内で捕獲された例も見受けられますが、イノシシやシカの罠に誤ってかかってしまったケースだそうです。こうした場合、人を狙うクマでなければ山に返しています。

クマは基本的に警戒心の強い動物です。緊急銃猟の準備は疎かにできませんが、人とクマの生活圏を分離して共存することが基本的なことです。クマを人里に近づけさせない対策（畑の野菜や実が成った樹木を放置しない、クマが隠れられるヤブを刈るなど）を高齢化や過疎化でやりきれないのが全国的な状況です。本市では対策に穴が生じないように、地域の助け合いでカバーする仕組みを採り入れている地区もあります。また、防災減災・生物多様性保全・温暖化対策など様々な観点から森林の適正管理が求められていますが、クマ対策の一面もあります。林業従事者の減少、相続等による引き継ぎ不足などの課題があり、事業者や森林所有者に対する丁寧なアプローチが必要です。



一般質問 ②校外学習の充実

遠足や社会科見学、修学旅行など教室以外の場所で学ぶ校外学習は、現物に触れることでしか得られない知識や体験、仲間との協力や議論など、貴重な学びの機会であり思い出にもなる代え難い授業です。しかし、物価高騰や人手不足、感染症対策や熱中症、クマ対策など、社会情勢の変化などが課題となっています。特に、宿泊施設と移動交通費の高騰、運転手不足に起因するバスの確保困難は今後深刻化していくことが予想されます。各家庭の経済状況や教育方針などにより子どもの「体験格差」が生まれている今日的状況において、校外学習の内容充実と機会確保をしっかりと行うよう要望しました。バスの取り合いにならないよう、遠足の時期が被らないように調整する、公共交通機関を利用するなどの対策のほか、学ぶ場や内容を工夫する方法もあります。八王子市は広い市内に様々な地理・歴史・文化があり、企業活動や市民活動も盛んです。広島・長崎・沖縄など、そこでしか学べないものを学ぶことも重要ですが、身近な地域資産を活かした授業が今後増えていくかもしれません。

政策制度要求(11/11)

市民が安心して暮らしていける地域を作るため、連合南多摩は 2025 政策制度要求書を毎年八王子市に提出しています。今年は植原副市長と面会し、子育て環境や介護提供体制の充実、職住近接のまちづくりや、市内経済の好循環をもたらす公共発注などについて懇談しました。

八王子芸術祭開催(11/8~12/7)

八王子芸術祭は2年に一度開催されるアートの祭典です。第一回目は恩方地区で開催され、第二回目が中野・石川地区です。『経(たて)の糸に緯(よこ)の風を通す』がキャッチフレーズで、町の歴史を今に伝える織物工場跡や染色場などを展示場に、布や糸、歴史文化などに着想を得た作品が数多く展示されています。

芸術祭が終わった後も、展示された作品の一部は引き続き展示されますし、会場の一部は作家の活動拠点として活用されるそうです。次回祭典は南大沢・みなみ野地区です。生活の中にアートを感じる街、八王子になるよう、今後も取り組みを応援してまいります。

日常生活用具給付等事業で

スマートフォンが選択可能となりました

重度の心身障害者(児)には日常生活をサポートする用具の購入補助する制度があります。2025年11月よりスマートフォンが「情報・意志疎通支援用具」に追加されました。スマートフォンとソフトの機能が向上し、見る・聞く・話すことに困難がある人のサポート道具として十分な性能を持つようになりましたが、補助対象品ではない状況が長く続いていました。スマートフォンは義手や車椅子のような専用品とは異なり多機能・多目的な製品であり、目的外の機能に対しても補助金の効果が及んでしまうからです。視覚・聴覚を補助する専用品は高性能かもしれませんが、スマートフォン以上に高価で、機能別に複数の機器を使い分けなければならないというデメリットもありますので、一台何役も果たせるスマートフォンが認められたのは大きな前進です。ノーマライゼーションの実現に向けて、今後も制度改善を要望してまいります。

写真で振り返る最近の活動



2年に一度の八王子芸術祭(今回は中野・石川地区を中心に開催)



清川町の落ち葉焚き



完成間近な新公園「桑都の杜」工事視察

ニュースに対するご意見や感想、市政相談は下記まで気軽にお寄せください。後援会の加入、ポスター掲示の御協力、ポスティングなどのボランティアをしてくださる方もお待ちしております。

発行・問合せ先: 森コンヒコ後援会
〒193-0804 東京都八王子市清川町 19-10
Tel: 070-5580-6844 / Fax: 042-698-5013
ホームページでの発信も行っています。(右 QR コード)
E-mail: info@moriyoshihiko.net
WEB: <https://www.moriyoshihikohachioji.com/>

